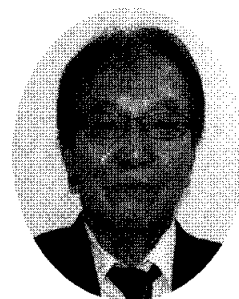


[発行所]
中友会
 港区西新橋1-22-13
 全日本中学校長会館202号室
 東京都中学校長会事務局内
 TEL 03-3504-8705
 FAX 03-3504-8706

会則第2条
 ●親睦
 ●互助
 ●生涯学習

<http://chuyu-kai.org/>



平成最後の中友会会報をお届けいたします

中友会副会長 八島 行久

中友会の会報・定期総会・懇親会を担当します八島行久と申します。どうぞ、よろしくお願いいたします。

今号は、テレビドラマ「下町ロケット」佃航平佃製作所社長の言葉「知っているのは過去のことだ。大切なのは今であり、これからなんだ。」風に中友会との関わりを書かせていただきます。

○中友会との関わり、過去編

かつて都校長会の厚生部に所属していたころ、今はなき神楽坂エミールで中友会が退職校長を対象とする「退職セミナー」を開催し、この会に関わることがありました。このとき初めて中友会の存在を知りました。

退職後、まさかの中友会幹事への勧誘は、私にとってまさに「青天の霹靂」の出来事でした。

やがて三年目、同期の幹事の方々が中心になり会報の継続発行、会費納入を含めた財政への取組、日帰り研修・東日本大震災の復興支援をテーマにした宿泊研修など大きな仕事を熱心になしていただきました。

二度目の「青天の霹靂」の出来事は中友会結成

五十周年行事への関わりでした。実行委員会の中で宇津木順一会長のテーマ「語ろう。あの時のことを、そしてこれからのことを」と、工藤豊太元幹事長の「八島さん、何かスライドでも」の一声に、どのように応えるのかを考えました。過去の会報が都中学校長会事務局に保管されていることを聞き、目を通したところ、この会報こそが中友会五十年のあの時を語る証と確信しました。

作業としては、創刊号から100号まで、その時々の記事をスキヤナで読み取りプレゼンテーションの画面に貼り付けることです。この作業を通して中友会の継続した活動を知るとともに、この会報の作成に当たり、企画した人・原稿を書いた人・編集した人など、創刊当時から今日に至るまで会報担当幹事を始め、多くの会員の計り知れないご尽力を実感することができました。

このことから、当日のプレゼンテーションの出来栄はともかく、参加している会員の方々に中友会会員の歴史を共有していただきたく第一部の式典の中に入れていただきました。

○中友会との関わり、今編

「青天の霹靂」、三度目の正直は中友会副会長職への依頼でした。三名のお世話になった方々からお話をいただき悩んだ末「人から命令されたらノーと言え。もし頼まれたなら少々無理はしても聞いてやれ。」（朝日新聞平成30年5月21日朝刊折々の言葉から）が目に入りお引き受けすることにいたしました。今、会報とともに、中友会のホームページ（以下HP）運営に関わっています。

中友会のHPは岡野仁司前会長と一緒に平成25年6月に立ち上げています。全くの素人づくりですが、自分なりに「会報は会員の皆様に読んでいただくもの」「HPは会員の皆様に見ていただくもの」のスタンスで取り組んでいます。そのため文字はなるべく少なく、大きく、写真などは会員の方々が多く写っているものにしていきます。

○中友会との関わり、これから編

副会長就任のおり、先輩会員からメッセージが届き、その末尾に「会費のみの無言の協力者」と記されていました。改めてこのような会員の方々に支えられていることを痛感しています。

一方、中友会の総会・懇親会等には都中学校長会長や全日中会長経験者の方々の参加も多く、日帰り研修や宿泊研修ではいつも新たな会員の参加と出会いがあります。様々な会員がいらっしやいます。共通点は「東京都の公立中学校長としての仕事を成し遂げたこと」にあります。

これらのことを念頭に置き、千八百有余の会員の皆様方が、中友会の「親睦」「互助」「生涯学習」の精神でつながる会報を、これからお届けしていきたいと考えています。会報担当幹事共々よろしくお願いたします。